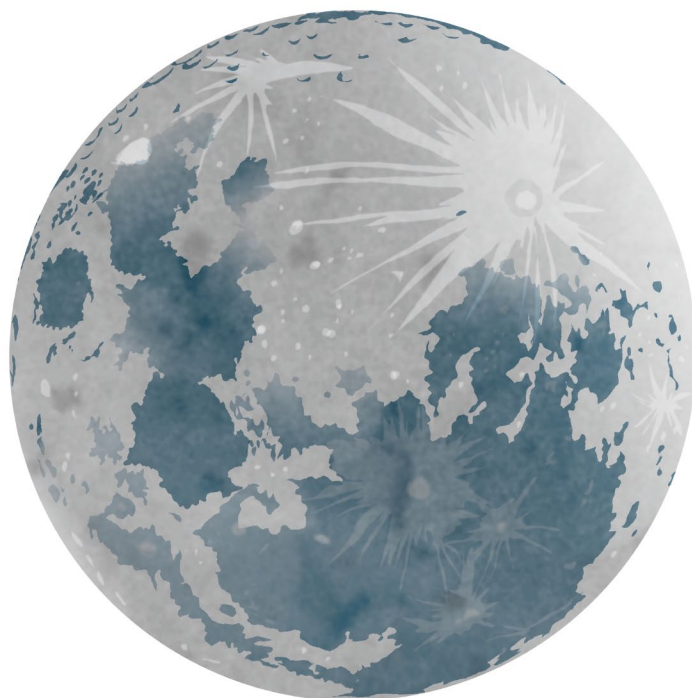


「教員を辞めたくるとき」 に学校で向き合う



「仕事を辞めたくるとき」は、職業に限らず誰にでも訪れます。

看護職は、基本的には“我慢強い”という印象があります。ただ、だからこそ、我慢の限界までいく前に、その原因を見つけ、対処することが必要だと思われます。臨床看護師や一般の教員に比べれば、看護教員は“バーンアウト”について語られることが少ないかもしれません。けれども、現場が厳しいことは同じ。辞めたくるときは、やはりあるでしょう。

今回の特集は、「辞めたくるとき」はどんなときなのかを改めて考え、そのときを迎えないように、あるいは迎えたときに、学校としてどうすればいいのかを、考えておくきっかけにさせていただこうと、組まれたものです。最終的には個人の判断とはいえ、問題を普遍化して考えることができれば、解決の糸口になるのではないかと思います。